

Kodak
LICENSED PRODUCT

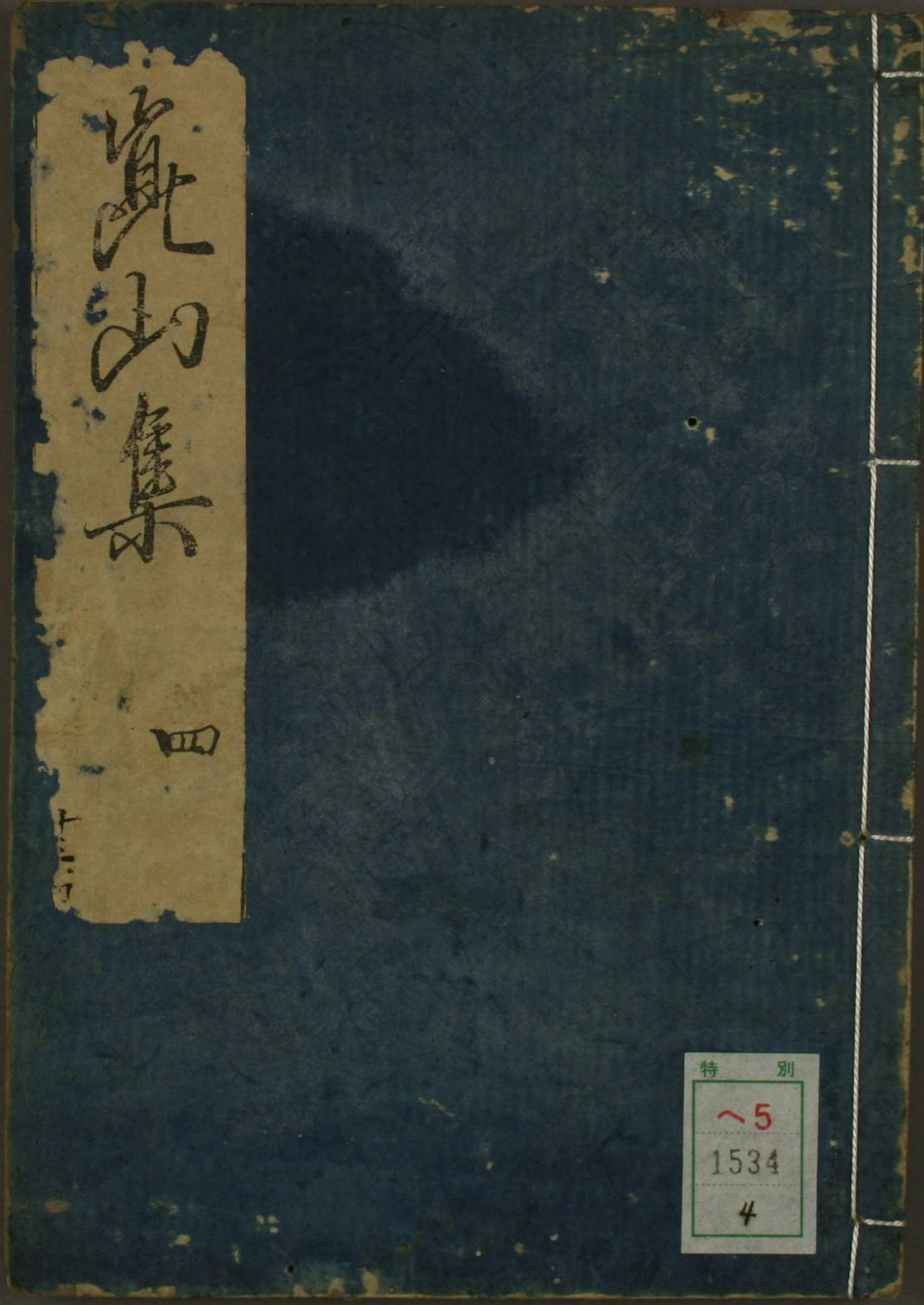
© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Centimetres

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



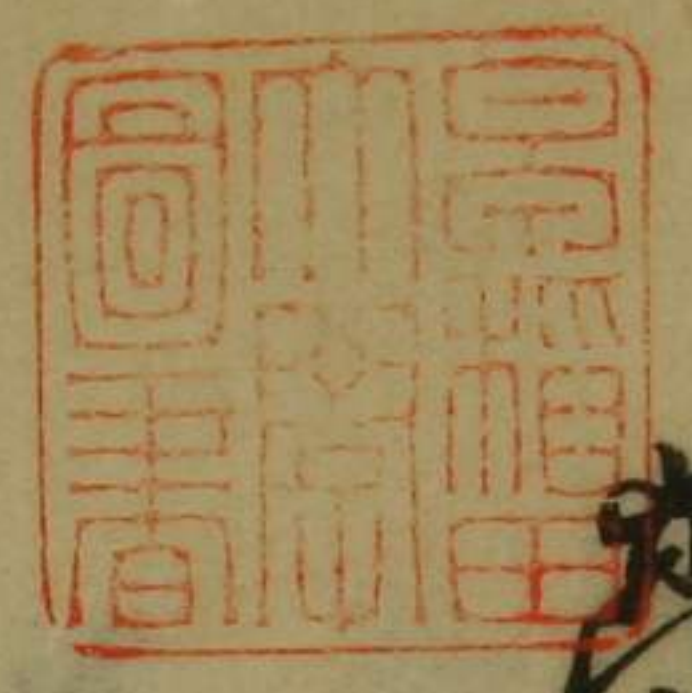
道山集

目

特別
~5
1534
4



八五
利
1534
卷 4



茂山集卷三之下目錄

檮

白鳥花

海棠

去草

歸馬

三

檮 附目
日介

梨花

辛夷

山吹

燕

花子集卷中四

花
花
花
花
花

花
花
花
花
花

花山集卷中四 春部

櫛

花子のふふふのつを大櫛
さうりのふふふのつを大櫛
ふふふのふふふのつを大櫛

日

花子のふふふのつを大櫛
花子のふふふのつを大櫛
花子のふふふのつを大櫛

俵くちまき七重の藤と八重栲
善賢家のいふかゝ永日の縁

水野めく二百駒き新地

舟借されまれ

二百駒の花や合く八重さく

漬き入るしとれちや姥栲

徳能留舟

花のちり役まよともやと栲川

舟め入く交ぬ花火の系栲

柳もやさくすしひのいとさく

おとせ礼も版と俵栲

つけくつけくも火栲の花乃

久舟者ふまをて死てやま栲

勢りあさく人もひひ家さく

虎乃尾の花め遊はけいぬ栲

風袋はぬいさくよとさく

咲花と老の果報を嬉々
山姫のまじり物がかさ
掃地と木流や蛛の家さ
火桶も程とまりて咲
花と女も酔く後ま
道とさつりても多
糸宮のよき花じけ
花の口をわらう物
さつり

の木と花はあつ
善賢象の法を
嬉々花乃さつり
心かそわちふと
鼻か似く盛
名かおら地さ
さうくさつ枝
善深かさけ
三

三
も羨ましくみちやせんとの初橋
花の散るりや吉野の橋を
さく橋かくりさくみよ系橋
かたわらや鹿をじとてぬ系橋
いよ羨あけけ乳のこもこい
こわつふ落花指藉さりの水
火橋を羨する橋さりのけ水
大橋みくやせりりく懐かれ

花如蝶の舞を初集え
系柳忍り橋のけけ水
目の出ぬまきこ恋れりの大橋
年くお花とやりさり悦さる
風中りよまてみふ忍り橋水
風乃初とさけぬ人な保橋
おしりひや花の散るせり橋
目あけを山のひこむれ大橋

花の友松や前貴人此系さう
小橋のともやの葉やらりののり
酒らまさんー奈くみよは松橋
ましく候をへかまたの鏡さう
毛と吹や虎の尾と友松は松
大橋をせよの松と松子もさか
田定の門も松らやいぬさう
虎の尾やちふも松まう松の

山みくそわあまといちり松
お前を人別れ若もつまさう
楊貴妃の花を所松ら前か
三妻の故やわらうくまさう
橋戸の穿松るれや花さうら
おんと本もやうくの系松
大風もさそちりむちれ山松
花守と山脚ともいさん松橋

口

口

栴檀と栴檀さるや花うら不
まのさしをさるは名け栴檀

遊者

きふ親のむん栴檀とさゆを
板らん舟なりとてさ開く栴檀
詩女歌よ讀つこゝ題のさるが
らん子雲はるを虎乃き栴
うとさるのさるは栴檀

栴檀や依保姫、そのまをん
おはする深山栴檀やんさるを
風さるは結と事いゆん九家
塔電の花とのそくは近国^{さる}
咲ぬまをこいていあのみまふ家栴
ま同い海おれ本やさるの八
風舟敷花をさげのり家さる
廻つまをさるは山姥さるの如

枝折く坊主ふかしくか見極
大漫の松といわれる俵掛極
さふ志ふぬ木たつゆさ極を
あゆさふ風と極母の児さう
懐紙ゆもく名所の花と極
花盛ふ口の香も香賢あ
象とさふひの風とあく大極
枯も咲もんさうの花もさ

物も慈悲内外おだゆいせ
大風のさふも古さあさう
さう人袋さわくも舞く極
八重ふ咲花も蝶さ此系極
ささりさう人あささそ極
さ極ゆさう一ゆ花さ人極
小極のちりさうく水もあゆ
前極も老く二極思さう

みまのくも花をまきくり焼栴
雲と花とゆふらと元らん栴
塩電の前や火だまの焼栴
切らぬく焼きうのみさし栴栴
目やとり此栴と柳さうくす
蝶子の常宿るれやあさ
らうさいの栴くも栴くま栴
焼栴花や百とせもほお栴

美風ふさくく栴くもま栴
とそみるや大原まの系栴
吹ら枝を風折るゆ一栴くか
花と風とと落るもさうりか八
わら蝶の目此栴腦の火さう
家と花の白ひとやく善栴
花の落の柿ふ此栴の伴栴
ゆり花かさいとわらふゆ今栴

風ふなむらぬふ垣のむらむら
名あひのむらむら表紙の系極
らそそむらむらむらむら
枝くれぬ人も高生大さむら
咲花やせん一母梅をむらむら
花のちれむらむらむらむら
花そそむらむら二まむらむら
志そむらむらむら下紙の系むら

日本の花はあふむらむらむら
表風や吹むらむらむらむら

中国寺へ系極のむらむら
誰もむらむらむらむらむら
散りくむらむらむらむらむら
火極や好むらむらむらむら
見極むらむらむらむらむら
東山も御物のむらむらむら

床もあはれ花も雪の糸さ
栲田の上へんかねや若野山
塩竈の暎とあふかき清下
花ももあへき伊勢い栲子
楊貴妃乃花も胡蝶やうの
楊貴妃の玉はあけりうも花の身曲
雪の栲も花も花の家さ
花の後を木男さんや回栲

甲り来るも雪うら雲へ回栲
木花より八方より花八重栲
八重も花もはいつてつ重栲
ゆめみふ人も先へてゆくと栲
妻の花といひてもさうなを栲
をやむ判皮元つと妻は風
栲田の徳都る若野法師
房りもやゆへわりの山栲

さけとらふ佛お経の善賢家
みく徳女人もたならやほ辨極
大橋の蒼い下子ひらうか
花お男と推らう善賢の極
嘆むやじん本佛の善賢家
きよのおくおきやまきさう
花車牛のむけともやま橋
年と推ぬれとれ初歌此山橋

定之

山橋のまてほも一まう那

伊勢富田原日
あきさき

吹らうは風や飛濤の山さう

定房

あいらし寅卯を田此橋をか

本意

橋も軍や花のひらほか

正和

ひらけと若野此橋やあかん地

正辰

花の波も物お野原さう川

正盛

橋ちう隠て清くやゆさか

正秋

吹風のさもよさか

正春

わささ梅のきそりえるき次木

久野

花も今より申納をさうす町

貞好

梅の由西此花と

善昌

むきみと花や梅の由西乃

善昌

昔冠梅の屯

善治

さうりちらくを梅の花かん

善治

梅田

良勝

花身へ美梅田此のくくお

宣安

梅田ハ梅人羅のわさ方所

宣安

梅田と梅田や花のよせ坊て

善安

田原くそふら此時

伊守

まじ地のをき梅田やめさた

池田

伊守

梅田ハ吉野法師の寺領外

八重梅

糸引をよとやうの地をのき梅

貞好

小八なる此花車をわつささ

貞好

素良物のおしらきりやの
八海とそれ花軍のまこり
九まふ句かむらあつまゆ
つま橋二まこり四季かゆも外
八重橋火そりせをこま東大寺
つまこりま友友なむや素良曝
八重橋刀り足まこりや八文字

西約橋

大正
林麻
安道
正奉
友室
正朝
由南

年とくく又えんあめ橋か
水田やまこりあめこりこれ

家橋

あめ橋か親らりゆり家橋
徳谷ふこ八増速家こりこり
八橋を枝よりこり家こり
風ゆゆの在るこりこり
花軍とくあやう馬の家こり

保友
正知
安道
貞剛
南朝
好道

つらつらとくわらわら後友の家柄
そとくありあむむむむむむむむむ
常つと本つらつらつらつらつらつら
家柄まふまふまふまふまふまふ
和弁とよあ柄とたため家さうむむ
目み入やまけくむむむむむむむ
姥や子や女とここの家の家さうむ
たの地さうむむむむむむむむむ

三所

宗時

横河内府首

正次

中時

貞宣

伯耆栗山寺地

信成

香公水谷

長昌

野色

利政

新政

充寛

徳谷柄

徳若いむむむむむむむむむ
徳若のがあつふむむむむむむむ
らまの人の花やを年むむむむむ
徳若むむむむむむむむむむむ

徳若

正勝

平松

一明

徳山

良成

保友

徳電柄

徳の教養徳むむむむむむむ
ふむむの徳むむむむむむむ花

徳若

勝若

貞成

貞成

三つりつて

散花をよりの結乃三つりつて

充寛

枝を蝶子まきりつて八橋の花の浪

如欠

はのよらん花のしら此本三つりつて

之賢

あつ川や風凰の橋三つりつて八

清之

花畑さん三つりつて八つりつて

政次

楊貴妃橋

楊貴妃橋

花をよらん花のしら日けつて橋

知之

楊貴妃のしらつて花の雲女

友我

虎尾橋

あつ川や風凰の橋三つりつて八

如貞

花畑さん三つりつて八つりつて

宜保

花をよらん花のしら日けつて橋

智之

姥橋

短冊や付くつてわく姥三つりつて

道長

唯つてあつ川や風凰の橋三つりつて八

盛福

さくや姫今のくやるら姥さう

信田

政信

小蝶ゆわちまか吸さううを極

江戶

一滴

光ねまじさうわね祖父姥さう

松山

康耳

氣力るまき柳をちいろうをさう

保友

厨子小治さくや小町の姥さう

江戸

一心

長いさくや桃女咲わふうを極

一系

素十

姥さううなぬめ花や百年の

左我

姥極小治くや祖父の少次んき

安明

姥さうくふさうさくえじや花は歌

花

正次

子ねらんさうわいさの姥極

兼名

妙貞

花咲く氣ハ十八やうをさう

徳方

一敬

さけさうの白姥さううを此の

伊方

信次

年々さくや本をたわらぬ極

左近

勝右

枝を百さういづくに姥さう

左近

勝右

山崎ハもく見せなり姥さう

左

酒永

火とさく花を火極さうを極

目

其

右時

花袋散珠うくるわ姫さ
新形や朝衣挿ふうささ
冠母をほくもかきなり姫さ
つらもいあもさるわ姫さ
火とるもたわ黄の姫さ
友さるる老のさうささ
巻綿さ姫さるわ花のゆさ
花の小鳥花さ孫の姫さ

新川 雲樞

中流 留成

右 有る

山 中

福 近

福 升

之 留

宗 貞

書 下

三輪の山は花さるわ姫さ

系極

實撫さる川のささ系極
系極さるる花さるわ
花散さるるわさ系極
分さるる花さるわ系極
山風さるるわさ系極
新や花さるる針の系さるる

法 玄

純別 雅

正 忠

純別 過 接

負 宜

重 信

久 能

晴とすての髪もあかしの糸
手引とるわさくこころの糸

相

し元子

徳和之虫
石上

梳櫛

みまふもさるわふ神のみこ櫛
晴らぬ髪はせんをけりる
天下一といふありきさけを櫛

美名

利政

貞好

正貞

倭櫛櫛

少将櫛國帝盤の色も外

信留

政信

倭櫛櫛花母付らわ鈴麻山
悪風を疎れとるれ少将櫛

兼房
櫛右

色

奥山と内宮をまわ倭櫛櫛

江戶

定直

花の弁や衣今可美倭櫛櫛

八木
康耳

寛定

多も川母ま花のたわひせき
袂宮の花れとまこやいせ櫛

元信

元信

花菊ハ折の都や倭櫛櫛

袂政

軍せよと糸井行畏倭櫛櫛

種宗

伊勢橋をてわじりゆら

花の顔もあつらふをわらひせ橋 遺保

淡路山やうりさげみまの土橋 一井

くらゆきく霧や岩戸伊勢 之忠

花のわたり風国とあふせ橋 金成

花の波を清洗うやうせ橋 如負

若男橋くさう花のいせ橋 貞祇

田目多の物の花うら伊勢橋 不存

伊勢橋舟二寸とあけ舟のいせ 重貞

雲を咲花の津て山伊勢 英弁

花とみくゆきぬと花やいせ橋 後尾

晴ぬら花を針妙の伊勢橋 定房

ちそふやち和姫松伊勢橋 夕暮

伊勢橋舟こいあいの山橋 右

いせ橋花をうら伊勢 右時

作つと花を伊勢橋舟や似橋 元美

利政

約り伊勢の山

世世をりや馬と下りみる池

喜信 下産

新家の姪母侍柳橋

けりや

柳橋花の池るや御新電

みさあふぬを氣もさうきりや

九手ふ吟やさうく此侍柳橋

火とさも次花や神系の新橋

中目う波岸柳の花さうり

定重

信元

正次

幸山

角

池田

田村堂やさう酒とさじり

正貞

同人橋

わさき風おわくとさそふ而橋

いせんそく籠とわふる而橋

熊谷もらんで落るや同人橋

志とれを蝶や花や同人橋

見事さや同人橋二さん

花を根お里うらや同人橋

雅示

無死

貞利

種栄

一治

友勝

重和

地とさくもせらそゆさるゝ
山白きもや初のちこさく
花やゆみちりく舞く見極
都を去るか老子とらん見極
判友のくゆそこの洞さく
花の身もまきさくは見極
名をみわさくふつと源も見
見極ちり本入道やうま山

在木在園
宗末

中山
内悦

塘位
上侍

坊
修次

江
江

江
江

江
江

江
江

江
江

江
江

小橋乃流さ本花やふり
小さく此保童園の花の法也

大坂
安明

池田
身

黒深橋

白形さかろく黒深のさく
黒方のかゆく黒深のさく
黒深の花さぬるを道心
黒と黒らるると黒深のさく
かた刀人深の橋へ夫の花乃雲

橋
保友

正忠

坂
由尚

定旨

車
良次

良次

火橋

火橋の類をそのまゝ花火橋

源本記
信安

火橋の類をそのまゝ花火橋

源本記
信安

火橋の類をそのまゝ花火橋

源本記
信安

火橋の類をそのまゝ花火橋

源本記
信安

火橋の類をそのまゝ花火橋

源本記
信安

火橋の類をそのまゝ花火橋

源本記
信安

火橋の類をそのまゝ花火橋

源本記
信安

烏帽子橋

烏帽子橋の類をそのまゝ花火橋

源本記
信安

烏帽子橋の類をそのまゝ花火橋

源本記
信安

烏帽子橋の類をそのまゝ花火橋

源本記
信安

烏帽子橋の類をそのまゝ花火橋

源本記
信安

烏帽子橋の類をそのまゝ花火橋

源本記
信安

烏帽子橋の類をそのまゝ花火橋

源本記
信安

烏帽子橋の類をそのまゝ花火橋

源本記
信安

ふんさく

くし山松うんきんさく

花み蝶中ひく虫うんさく

流れりちのうらむ

普賢象

ちえさく文珠もいん普賢

麩のちふの月あや普賢象

教法や繪の具とけう普賢象

普賢象

中流 貞宜

普賢水名 長昌

正

正朝 如貞

月

柳枝女流るさ地くまか普賢

奈奈餅うわ船あさく普賢象

塔と枝を普賢象かう此る

花やうのう大将文珠普賢象

るふの佛りひくおれ普賢象

普賢象の柄や繪像の柄本垣

普賢象とれる一弁を本柄

柄田やまゆんあたりやと普賢象

樋口 正知

如貞

玄可

同

南を名 長昌

池田 長昌

長 長昌

花より長あうの普賢家
咲あやしくあんなや佛普賢家

夜 院

定房

元五

大橋

火をささい狐をいんたさ
とかのよくい狩人やあは大橋
大木は唐大なるさや大さう
風のよや大橋まて生をあり
之流くぬるや流機う大さう

普賢家

道左

富田市

政吉

片桐

良保

紀別雅

三兵衛

河野

美智

枝と切を殺生か〜大さう

大橋

宗法

花咲はらひ玉入よいぬさう

一麩

さけいこのまかぬらさゆさう大

宗貞

おろち我門ていけえよ大さう

宗辰

後次

桃の花は咲子たけいぬ橋

後次

初夜の強み余は花あるや大橋

由阿

猿と木をいそのけいん大さう

種政

大橋

明年の初花をくくまはく

奔うる長
重次

うはしめやゆきそき野のまは

宗時

花のまふはめいあんなはまは

重明

目かひりし入花をまは

英勝

あられめら双六もんやまは

友三

奥山や嘉例庭川まは

廣寧

花軍の敵うや約ふまは

伊誰

花の息れをうあくあしはまは

頼永

とまひるまをそまのたやまは

政辰

もろくさけお代まんのまは

中好

そまがらうの脚をそまは

月

花の波をうらまをまは

夕霧

花をそふらたをれまは

し元子

咲を散とゆらまをまは

去宵

花をさうハ半ふまをまは

正六

田方山の橋をわをまは

長頼丸

嘆をなちまはし橋やまわりを 月
橋本れまけけくせぬ者ぞ亦
きらりうやまらうと楳ぬまは庭
軍せら橋の花も想まうつと
見るゆやまらまハ人ふ橋うらと
お茶の雪が外橋みらるや縁屋
車屋より馬そのわといさうよ
かんごんの夢かうよいそ山さう

みかか人もわらうと老本は橋水
寺法師いりみかかたし山さう
系の花とあこりふこおさう水

系橋

近來友の花はあはげ系橋
かこ橋母花とらまけを系橋
風袋くららうらうとさけ系さう
せんうり母ちまや子中は系橋

将野の屏風乃栴とみく

くくまやのこけ人のの線

栴若栴

数心の散栴若のてれさうり

んも夫のりさ花をうみ栴らり

家栴

么家或家もひくも栴也家

地下とて毛やみとるまや栴

暖はくせ赤をせんさくの栴

風も毛前みあうま家さうり

暖と在み知や平人の栴

根舞の志けまや蝶乃栴

つ栴栴の栴此栴

繪字せよまきま箱の栴

まひさうを指らりそまよ栴

花のぬぬうこりま栴

火橋を三つと流るるを思殿
東風をけりしもあめさるる

回人橋

元きのまのちまのまの回人橋
明かぬ長緒るれも思さる
後^{サレ}に流るるや念ふちこ橋
つまづりるまのまの回人橋
眺めや見人のまのまの思橋

回人橋付より鈴や元を守り
多と流るる小橋おろし成
人あり人よのあし回人橋
ちくくみよ流るる思
学文も回人橋よすて坊主

姥橋

三途川越くも色見も姥橋
三途川越くも色見も姥橋

こ こ こ こ こ こ こ こ

夫のふらふら氣や関寺は姫橋
 依保姫のふれの果うや姫橋
 花さうぬふももると姫さう
 出家氣落まぬ奇の姫さう
 老の坂越くまふまう姫さう
 葛城の孝子や段乃うを橋
 まあ男持やさうぬは姫さう
 橋ゆへふとふせさきむん
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃

山はみちるぬらじうまきう
 雲深の橋は花の美人傳うか
 〃

善賢家

白雲み流の花は善賢家
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃

倭姫橋

海老橋み成くわうめよ倭姫
 野の定みささる新文倭姫
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃

能のわき所の奥好し

わきふ又別乃花をうま橋

独以小候わら智恵をま橋

橋翹 付 貝 口ノリ

花より毛実よりか引し橋翹

莫之木此初らたけう橋翹

塙よりて

橋翹とゆをふふせん志が心

釣舟小りけくふまう橋翹

橋翹と浦の管を此花にふ

軽と流本小候のなき橋翹

橋翹とゆらひ急いま切しき外

魚小たわりりさけさくさい

釣舟小翹やそのまう系橋

霜布りや朝日いそはれ橋翹

美とともやさきさきもさるれ橋

口

木

橋

酒をくちや 庭の海にさくら朝
山を花海を 雲生のほろ朝
ざら花や 花をさるる朝朝
山海の珠抱るれや さくら朝
ゆきいよの 神木ありや 朝朝
橋朝入とく 縁のんりー 朝朝
傍星を花や 海中ありや 朝朝
とら海をさるる 抱るれや さくら朝

煮てのさや くのさくら朝
わさくらを 花にんとさくら朝
橋朝や 四かきみの作らば
焼もさくら ちとみ深の朝朝
ま柳の系あり 釣るさくら朝
八重に 垣花にさくら朝
新文の初花に ちとみさくら朝
雨みたまき ちとみ朝朝

政原
定之
未得
日
政信
保友
隠人

檜翹魚鱗母のまきとれ軍

純村之島 直政

糸らりの柳の浦のさくらさ

浪石 安羽

目いせくともかともさるや檜

同

登るもろくや志り檜翹

信森 幸

見流さへ柳すか栢やさる翹

池田 林麻

花らうろこ枝いりも檜翹

一勇

水底のびきし木母花も檜翹

江守 珠可

在の中おこそ味う檜翹

江守 直成

素良酒のさくらもつまは檜翹

五 不盈

むとけをさるさる檜翹

信公

ひまもろやまわさるけの檜

信公

吉野川のさくら

信公

吉野川母のさくらもつまは檜翹

中村 貞宣

檜翹を霧の酒れさるか、母

中村 重剛

骨らつと只みろく野の檜翹

長聚

あひと心はさるさるもつまは檜翹

同

大東へ多ふやうかのさう鯛
花母うりふかおをよき橋鯛
ふれ民の中乃御花や橋莫

日

橋貝付海草

みま花や目菜入のさう貝
蛤のさうら母やうやさう貝
い専の敷之物やはう貝
橋貝ら口のひうくとさう貝

信
政信
紀州
由富
南勢
直和

ゆううく母波とさ録を橋の
花をそておさるわ海草橋の
徳名の花を得るや橋のり
さくはまや人のさうは橋の

白鳥花

花のけの水をさるは白鳥花
英田やうさうさうさう白鳥
神地や風母おれぬさうさう

兼名下里
徳貞
西純
三徳
松榮
尾川長石
梅盛
後次

梨花記

うくあつかり此ら母咲梨花を
うく綺やあふの夏ては梨花の
氣晴ても風志んらるる梨花のむ
水やうのたの波を夕あらし
友時そあい魚川梨花の表誌
咲ちりへ今も定梨花の習
うく目もやうくおる此もの

似る物とくうふさの清本

長歌れより天氷と云能

猶の道此を巻とゆらと

きく時むらさきの今も

天氷の文字やこけり

海棠

いさういさうけりる花に赤
海棠の移りる花に風の香

酒香

良徳

石田 五宣

斤初 良保

徳聖寺 孝之丞

権山 保友

江戶 安直

朽らむいふもいふも花は

海棠や咲くちりまて一絲ふ

いさうと眠花もさう小蝶か

花をむ海棠一のそれのふ

花の落らかいたうくやる眠

海棠や九旬のまよ一眠つ

強倉も咲やふさささめい

四睡も海棠柳さふおささ

信 赤如

改信

玄徳

奈氣

長歌丸

人の目ささしり海棠の眠

海棠のけがさや花の王子達

辛夷

さよまきらあうー花の盛

さつさぬへ順のさう花の赤

花のさうさうー辛夷花の

ちまきら花の起あらさう

つくみさやうー花のさう手

同

梅川

之句

大なるあつじの花のこころ

春草集
心黒

梅舟こころ咲のりさし

梅舟やふらの花乃きこせ抱

夕影

花舟やあはれはらきまうそふ

長鏡

春草

あんなりのあつじのつらつら

えんりのともやこころは胡蝶

そんほやきこまゐのより

あつじのあつじのつらつら

あつじのあつじのつらつら

あつじのあつじのつらつら

あつじのあつじのつらつら

あつじのあつじのつらつら

あつじのあつじのつらつら

あつじのあつじのつらつら

ていつを野原舟出〜
あつた為髭のちらりきらきら
けら〜舟出舟出〜まき嫁
あつた〜いさ袖とららやけ
だ〜こもや音ととと〜此烟
水落の針と縫ふや波の文
あつた〜はび〜二本の杖葉
佛の夜と〜ん〜夜〜や落の

目と物とを板の下に鬼あき
汁の子あわと〜る素も嫁も
あつた〜いさ袖とららやけ
あつた〜はび〜二本の杖葉
佛の夜と〜ん〜夜〜や落の
あつた〜はび〜二本の杖葉
佛の夜と〜ん〜夜〜や落の

舞生くわきく宿母の嫁の森
 わ魚らわく鬼味當と城筋外
 とけゆふ事花と露の玉藻
 と白と山掛くそわ志の嫁
 けく雲の海野母わらわ書
 結母くせみそわらんの花威
 せんりくと姿まうえ気そとら
 とわせあわお切らん母たんり

奥石 友三
 江沼 遊行
 幸太夫田 昌高
 中務 貞宣
 留らるる 正成
 金田 元清
 勝山 正徳
 江戸 未得
 井上 季吟
 後五斤 正知
 伊賀 正頼
 備 宣勝

崩つるも藪此能のけくみ事
 野の笑母とわさるるの報
 報事の時といらんを子持水
 梅子よわのつそをさしむ報事
 けら町の汁乃こ為やつと事
 去るの事わけ勢はくそ事
 往來ふらわていさんにつと事
 けらららら釣も若じと報事

奥石 友三
 江沼 遊行
 幸太夫田 昌高
 中務 貞宣
 留らるる 正成
 金田 元清
 勝山 正徳
 江戸 未得

野抄の母孫く

刀付くへむ川よりるれや藪草

藪草 元ら

とけぬらと云やた毛の筆芽

筆芽 貞好

山のこゝる芽花のかまてぬき花

花 系信

子たくらぬくあひ口の流る花

花 種栄

橋くくはらふ又川の松葉小

井と 正念

一把二把三把のちるし此松葉

松葉 亨時英

糸と云へ糸と云糸の松葉

糸 亨時英

賣付らばや申合人嫁うと云

橋別國村寺

嫁うと云さ橋やを雲小野寺

橋材井七郎

嫁うとけ跡を住るれや草花

尾別寺

野原より出るか薙を鬼子か

定直

翁つと居るや薄の中は鬼薙

貞悦

野母生ると云やうと此薙草

幾成

衣薙薙れたたのあさも花の

董林

角と花も国を自母もろも鬼

林麻

鬼をけむるやうにむらやめさし

夕新

朽く露をぬきまきし舍利の鬼筋

保友

損道とるまきやわいの鬼筋

得松子

赤花の玉のふゆりりり

定直

うんたらしきれく井のちちま

後治

まき草のものをきんはせらる

金寿

あまのまはれりともあられとゆきの物

正式

物とられば建てるれや落れ

英政

みくろりしあや死し金平

素久

西文の弁ふしりんさる

角

あちあやと水とまじはる

正好

あかあを防風とくまの

良知

あふそのひゆりり

湯右

援てら神流とるうと子た

長調花

あまのあやとるん

同

おきてえきおらり

は

白き足袋もくやあるは嫁り
〇

母の姉もふ子のそもは嫁り
〇

高は綿もくまかきもは嫁り
〇

流らるるは母所のおは嫁り
〇

じふ子の野守の初は嫁り
〇

よあつたまのうはけは嫁り
〇

とやうきとくは嫁り
〇

是をばりしうは嫁り
〇

てをるるあやしは嫁り
〇

といもれけりとは嫁り
〇

思ひくは嫁り
〇

ちうみりといもは嫁り
〇

山吹
〇

妻の部は未母は嫁り
〇

山吹の流やみは嫁り
〇

ひく水あくるは嫁り
〇

良和

清回

初共来

山吹の流のまゝあんねん

良任

こぼるまをみゆいあう流

長治

ちりてかうこめやた歌の歌

貞長

山吹とたは目へあう子唄

如貞

山吹やたを小金のふりつけ

一勇

わんまじい流勢をや金冠り

長次

まき地も風の勢をや金冠

同

山吹のまや右野の金峯山

歸序

百姓の序とをぬくと田の面を

因りしをを勢を流しとわ

竹うめや一字子金入家序

約束の流しめをわらうと

あけし家なるやうとまは

可の字のかととこれなみ物り

破てい巖のわをとうんらうり

貝子有て秋津洲らも
勢もさるわういく友を久ら
久の家居此垂み打まわりの
友花母時乃子やいと海こ
馬子やびてん母詢らま此関
子里一とひやまらま詢ら馬
かりまらま力人捨くいわら花あ
由よひ子のからわく独ふらかり

氣平

まらかりら馬のふり二之流
咲花と力人捨くいそり馬
教多く花母乃子字文
真母葉一真月夜も詢ら
年砂母いらく書あまも詢ら
乃いけ字やも露のまぬ家
ゆらまのあ此詢らも常法
花と中そふくまらかふ家

江守
金巾

けまへふささうりれ勢うりか
本来の定母やうふらうも此宿
乃より此うさやううも文字宿
渡りうとが國してらんうふ宿
乃海ら草名こやひと此ううく
乃まみよ是申宿のうりし
又いんやうり竿母似るう宿
乃とさうりうりるれ乃さか

五若 貞利
大松本宿 信安
大松住 正周
江戶住 林麻
尾別宿 不存
三上 昌林
おや 清玄
康平

子母母

乃の○のの母とま母もあま
母けつら乃書と母よ交司の
廻りうてんけつら乃の文字
互別建いるを行平よ天津
母母の沈澄くもつら乃
なこも流具好ふ
るく母と都の人やうむり

高第良友 清正
一系 友我
兼名中源三郎 後秀
日暮を石主 直昌
金田 元清
良徳

為花枝かゝるぬとよま天律
今海つと社来家お花元ん外
巖ても書けとやうな為花季
為子も此文字や流も其合せ様
花もや舟うう山敷もく内海
そらの字れくくい水の天律
なるひくゆわやあゆゆ
くらも来ゆらてやゆわ天律

新下里

後貞

同任

貞祇

和山

貞長

泰本

專加

藤原

次良

石坂

貞清

右近

寛房

新海

良直

水此くく戀暮やあそく人

新海西村

膳右

梅川富田

尾川

正奥

系

三由

和川

安勝

平福

良次

長頭

同

為子も此よりふそと里梅
まそやゆわ梅か付らるの神
咲花もあそひさうら此勢
為金の徳政のゆわるを外
星やのわくまきさうら

せう糖くわや油はうらては油
 汁あつら味常と越路あつら
 山の腰をひくくあつら
 くらうそ法法あつら
 あつらかこ油まこつら文字の
 帯あ似と胸てあつら油あつら
 のせらく均ら越られあつら
 越中あつらあつらあつら

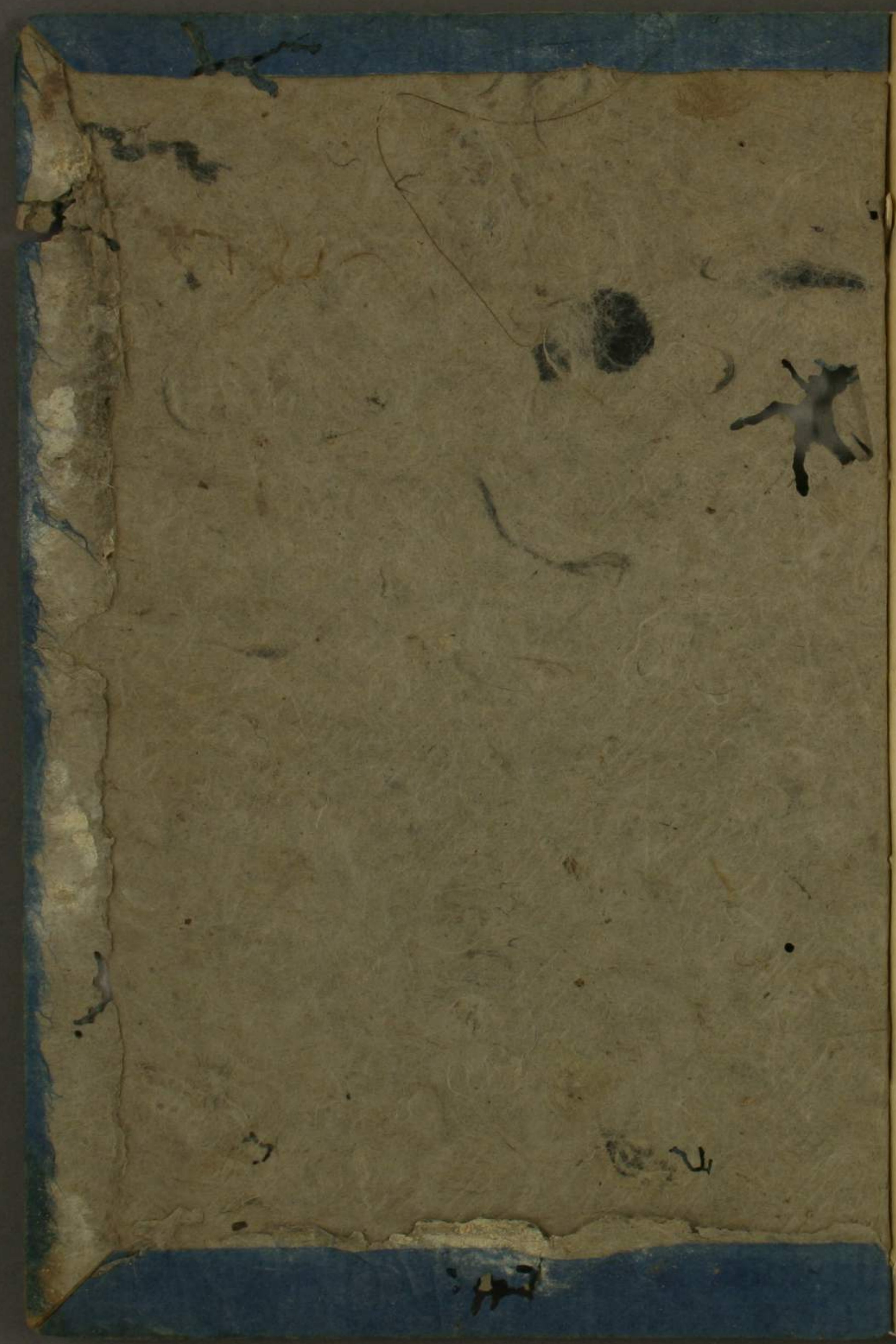
魚女

紀よあつらあつらあつら
 求食まらあつらあつら
 不さあつらあつらあつら

燕

尾川大野

流えらあつらあつらあつら
 茶の順



Handwritten text in Chinese characters, written in a cursive style. The text is arranged in vertical columns, starting from the right side of the page and moving towards the left. The characters are somewhat faded and difficult to read precisely, but they appear to be a continuous passage of text. There are several small holes and stains on the paper, particularly near the top and bottom edges.

